

令和2年度 「元気アップ高崎」 推進プラン報告書

高崎市立下室田小学校

テーマ：保健・食育・家庭と連携し、体力向上と健やかな身体作りを目指した下室田プラン

<体 育>

○成 果

- ・高跳びでは、タブレットを用いて自らの試技の様子を録画し、サッカーでは、作戦ボードを用いてゲームにおける動き方を確認させることで、改善が見られた。
- ・Tボールバッティングやサッカーなど授業で学習したことを学習カードに記入させ、コメントや評価を入れて返却することで、児童がその日の学習を整理することができた。

※別紙参照

●課 題

- ・高跳びにおいて、試技をするごとに失敗の理由を考えたり、サッカーにおいて、パスがうまくつながらなかったときお互いの意図を話し合わせたりすると競技の向上をさらに図ることができたと思う。
- ・サッカーは特殊な技能が必要であるため、考えたプレーを実際に行うことが難しい児童がいた。

※別紙参照

<保 健>

○成 果

継続して実施している『わいわいタイム』について、児童のふれあう活動が制限される中、前期児童保健体育委員会メンバーと下室田小学校独自の体ほぐし運動「ハレルヤダンス」を制作した。それにより、『わいわいタイム』の活動を再開することができ、楽しく体を動かすことができた。

●課 題

わいわいタイムの目的の一つ「異学年交流」について、感染症対策を考慮しながら進めていく必要がある。



<食 育>

○成 果

1年生には学校給食ぐんまの日に地場産野菜の話、2年生には群馬すきやきの日にすきやきの話、3年生には牛乳の残量が多い時期に牛乳とカルシウムの話と低学年を中心に給食時5分間指導の実施が出来た。またコロナ対策を含めた3色分けの教材を作成、掲示し、児童に知らせることが出来た。



●課 題

次年度は給食時訪問の機会を増やせるように努めたい。

体育の取組 「1単位時間のスモールステップ」「単元を通したスモールステップ」の設定

1単位時間のスモールステップ【帯活動におけるドリル練習の充実】(知識及び技能)

単元の目標【高跳び】リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと

【サッカー】ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームを行うこと

【高跳び】

- ・ 8の字ラン
- ・ ミニハードルを用いたスキップ
→ 跳び箱ジャンプ
→ バasketゴール下でジャンプ



ミニハードルを用いたスキップと跳び箱ジャンプ



- ・ ハードルを使って最後の踏切のジャンプ練習



【サッカー】

- ・ 手を使ったボール回し
(ボールをもらう動きを養う)
- ・ 1人1つボールを用いたボールタッチ



- ・ グリッドパス (相手から離れてパスをもらう練習)



- ・ グリッドパス (スペースに走り込んでももらう練習)



成果と課題

【成果】

- ・ 児童が学習する競技特有の動き方を習得するのに有効であった。
- ・ 試技やゲームをする際、うまくいかなかったときにドリル練習でやったことが役に立った。

【課題】

- ・ 児童が自分たちの課題に合わせて練習をする場を選ぶ際に、少ない人数の学級では準備に時間がかかった。

単元のめあてを達成するためのスモールステップの設定【思考判断する場面の充実】(思考力判断力表現力等)

単元の目標【高跳び】自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

【サッカー】ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること

【高跳び】

- ・ 3歩で練習

踏切を意識させる

足裏全体を使う
踏切足が伸びる
上体が上に伸びる

- ・ 5歩で練習

リズムを意識させる

トーン・トン・ト・ト・トン
大股→速くなるイメージ
踏切を意識させるには、踏切板を置くのが有効
(最後の2歩が板の上)

- ・ 7歩で練習

トーン・トーン・ト・ト・ト・ト・トーン
最初の2歩は大股
5歩でも7歩でもよい
歩測での助走距離の測り方を教え、自分で助走開始位置を考えさせる。[思考判断表現]



タブレットスタンドと
タブレットを用いて、
自分の試技を確認させた。

【サッカー】

- ・ 走り込みでのシュート練習
- ・ 2対1での攻撃練習
グリッドパスで相手から離れる動きは2対1で
どのように生かせるのか考える
- ・ 3対2での攻撃練習



- ・ 作戦ボードを利用して、今まで学習してきたことをどのように生かすことができるか考える。

[思考判断表現]



成果と課題

【成果】

- ・ 授業で学習したことを学習カードに記入させ、コメントや評価を入れて返却することで、児童がその日の学習を整理することができた。
- ・ 高跳びでは、タブレットを用いて自らの試技の様子を録画し、サッカーでは、作戦ボードを用いてゲームにおける動き方を確認させることで、改善が見られた。

【課題】

- ・ 高跳びにおいて、試技をするごとに失敗の理由を考えたり、サッカーにおいて、パスがうまくつながらなかったときお互いの意図を話し合わせたりすると競技の向上をさらに図ることができたと思う。
- ・ サッカーは特殊な技能が必要であるため、考えたプレーを実際に行うことが難しい児童がいた。